

烏帽子岩の標高について

三谷恭子*1・熊谷健太*2

はじめに

本稿は、2018(平成 30)年に、ちがさき丸ごとふるさと発見博物館(以下「ちがさき丸ごと博物館」)事業ⁱの一環で行った姥島(通称「烏帽子岩」)の測量の結果を報告するものである。ちがさき丸ごと博物館名誉館長であった故服部信明前市長の発案で、茅ヶ崎のシンボリック都市資源ⁱⁱである姥島の諸説ある高さについて調査を進めた。本調査の結果は、ちがさき丸ごと発見博物館企画展「お届けエコミュージアム! Vol.2 南湖 ザミュージアム」のクロージングイベント(平成 30 年 11 月 16 日)にて発表した。

1 姥島の概要

茅ヶ崎市の沖合 1,600m 付近にある姥島(図 1)は、50 以上の岩礁からなり、面積の広い順にエボシ本島・大平・長者倉・ウジマと呼ばれている。その広がり、東西約 600m、南北 400m で、中心の烏帽子本島には、岩が突き出ており、「烏帽子岩」と称されている。

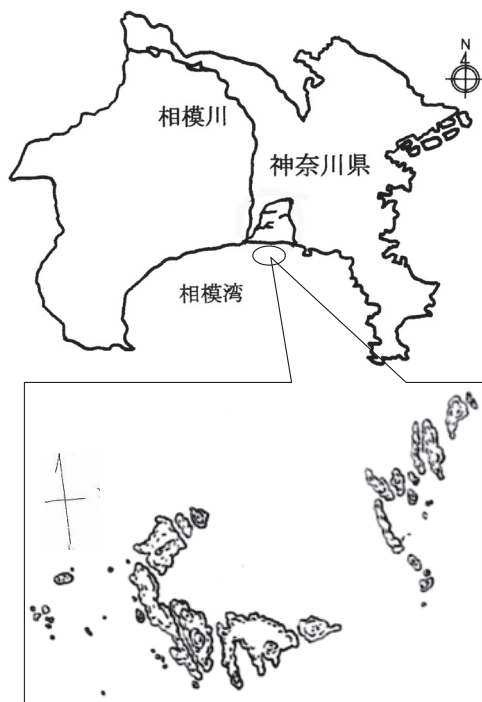


図 1 位置図

2 姥島の高さについて

諸説ある姥島の高さの一例は以下のとおりである。

① 海拔 14.94mⁱⁱⁱ

② 標高 14.7m^{iv}

③ 高さは約 12.4m^v

いずれも、測定方法等の記述はなかった。

3 測量調査の方法

測量は、ネットワーク型 RTK 測量で下記のとおり行った。

【観測日】2018 年 10 月 19 日

【測量事業者】関東工営株式会社

【天候】晴れ 【風力】無風 【気温】10.0°C

【気圧】1013hPa

【解析ソフトウェア】RTK-NSS (VRS)

【使用した軌道情報】放送暦

【使用した楕円体】GRS80

【使用した周波数】GS&GLONASS&QZSS L1, L2

【基線解析モード】セット内全データ

【セッション名】268-A

【座標系番号】9 系

【ジオイド名称】日本のジオイド 2011ver2.0

4 測量結果

測量結果は、下記の図表のとおりであり、烏帽子岩の標高は 14.615m となった。

本結果は、前述のとおり「ネットワーク型 RTK 測量」という方法を用いて測量を行った。今後発達するであろう、より精度の高い測量技術で定期的に測量が行われることが望ましいと考える。

謝辞

渡航にご協力いただいた茅ヶ崎市漁業協同

組合及び(有)渡船えぼし丸の方々のおかげで本調査を完了することができました。また、本調査活動に対し、岸一弘氏、名取龍彦氏に多くのご助言をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

*1 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課茅ヶ崎市文化資料館

*2 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課社会教育担当

参考文献

・相原延光・野木直樹 2008「茅ヶ崎市姥島の地質について」『文化資料館調査研究報告 17』茅ヶ崎市教育委員会



表 1

座標リスト			
点名	X	Y	Z
718:烏帽子岩	-77335.6218	38026.2523	14.615
6001:1	-77315.3750	-38043.8510	0.238
6002:2	-77306.7990	-38029.3800	1.039

ⁱ 茅ヶ崎市におけるエコミュージアム事業。市民と行政の協働事業推進体制で展開している。

ⁱⁱ ちがさき丸ごと博物館では、茅ヶ崎の文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材等を幅広く抽出し、これらを都市資源と呼んでいる。

ⁱⁱⁱ 茅ヶ崎市教育研究所 1984「茅ヶ崎の自然ガイド」

^{iv} 茅ヶ崎の自然研究委員会 1993「姥島(烏帽子岩)の動物」『文化資料館調査研究報告 1』

^v 茅ヶ崎・浜景観づくり推進会議 2015「えぼし岩のひみつ 第2版」